

箱崎まちづくり新聞

発行者：箱崎まちづくり委員会
 電話 651-7708
 (箱崎公民館)

♪第10回 オータムコンサート ご参加を！ 11月3日(文化の日)

恒例になりました九州交響楽団による第10回「オータムコンサート」を本年度も開催いたします。秋のひとつときをお楽しみください。今年は、ハープとフルートの演奏を予定しております。皆様方の参加をお待ちしています。なお、チケットは、10月1日より箱崎公民館にて販売していますので、ご購入をお願い致します。お早めにお買い求め下さい。(定員は120名程度)

- ・日時 平成27年11月3日(火) 文化の日
 19時開演 (18:30 開場・20:30 終演予定)
- ・場所 箱崎公民館
- ・入場料 前売り券 大人800円 中学生以下200円
 当日券 大人1,000円 中学生以下300円
- ・演奏曲目♪
 - ♪モーツァルト
 フルートとハープのための協奏曲より第二楽章
 - ♪マスネ ♪サンサーンス ♪海沼 實 ♪山田 耕筰
 タイスの瞑想曲 白鳥 里の秋 赤とんぼ
 - ♪A. ギヤニオン ♪B. ゴゼック ♪M. ラヴェル
 めぐりあい タンブーラン ポレロ

九州大学跡地利用検討状況の説明会を開催しました！

7月19、27日、8月5、6、7日の5回にわたり自治会連合会主催による「九州大学跡地利用検討状況の説明会」で箱崎校区住民に対し、福岡市・九州大学が進めている「箱崎キャンパス跡地利用協議会」の検討状況について報告しました。

当日は、以下について報告し、多数の方から質問、意見が出されました。

1. 移転状況について

平成30年度には移転完了。平成36年度にまち全体の概成、先行エリアは30年度には土地利用開始。

2. 跡地利用計画の内容について

- ・跡地利用計画でまちづくりの方針、土地基盤整備、土地利用の考え方の方針が示された。「成長・活力・交流ゾーン」「教育・研究ゾーン」「安全・安心・健やかゾーン」「東西道路」「南北道路」が位置づけられた。
- ・近代建築物のうち「工学部本館」「本部第一庁舎」「正門門衛所および正門」は、保存利活用を前提に運営主体を探る。また、既存樹木の保存・利活用も引き続き検討。

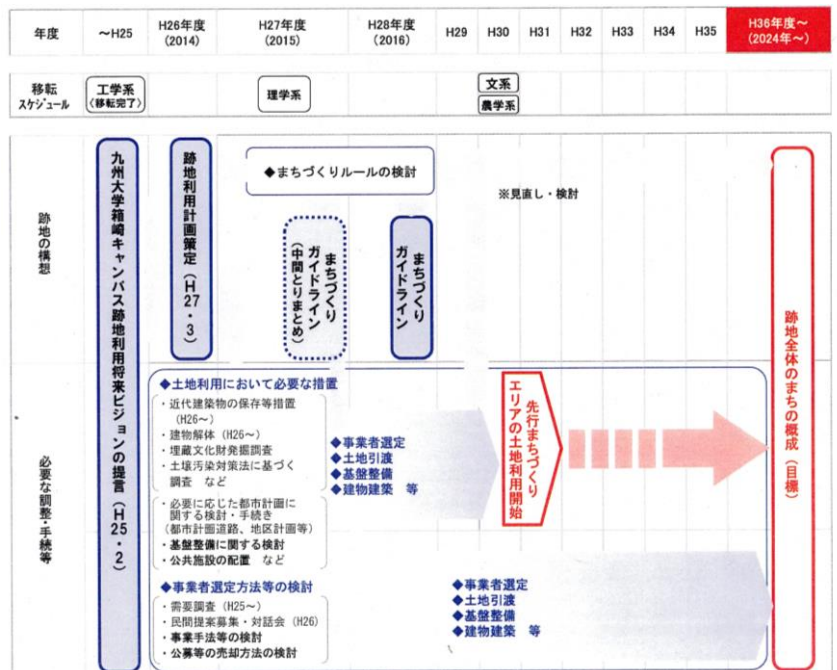
3. 跡地利用の民間提案について

開発事業者は、まだ決定していない段階です。九州大学が進めている提案募集で1次募集14グループから提案され、今後、その提案内容を踏まえ2次募集となる。

4. 最新(7月3日開催)の跡地利用協議会の検討内容と進め方について

跡地利用計画は、まちづくり新聞32号(3月31日号)に掲載した内容に変化はありませんが、箱崎中学校のキャンパス移転は、平成27年7月3日の跡地利用協議会で検討対象とされた。(決定ではない)

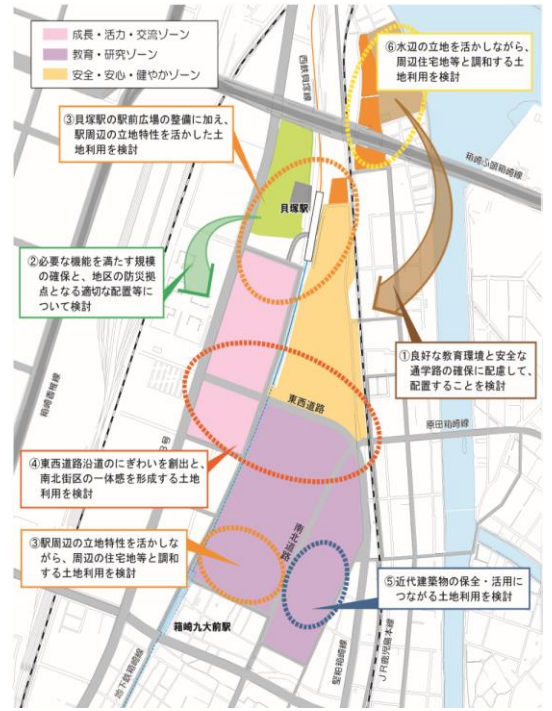
今後は、まちづくりルールの検討を行い「まちづくりガイドライン」の策定を進める。





[検討対象範囲の考え方] ←

[土地利用図(案)] →



箱崎の町名由来(第2回)

箱崎校区自治会では、古くからの町名が使用されており、まちづくり委員会では、その町名のいわれを調査しました。確たる資料は見いだせませんでした。故古田鷹治様の資料に町名由来の記述がありましたので、2回に分けて掲載しています。(古田鷹治氏著「箱崎に生まれて」より掲載)

菅崎宮附近には、お宮に関係深い人たちが代々住んでいた。社家町辺りを御社領(ごしゃりょう)という。(現在、社領(しゃりょう)町(まち)というのが菅松校区内にあるが、この地区に田畑を持っている人の殆んどが、社家町の人であるため、区画整理事業が成ったとき、父祖の地を偲んで、社領の名を冠したものである)つまり御炊(みかしぎ)、飾職(かざりしょく)、駕与丁(かよいちよう)など、社家の人々の住む町が社家町で、お宮に近い方が上社家(かみしゃけ)というのである。(同じ意味で、櫛田神社のそばにも社家町がある)かつて菅崎宮では、九月の放生会(ほうじょうや)のとき、流鏝馬(やぶさめ)の神事が執り行われていたが、恐らくその場所が馬場一帯であろうし、社馬場、本馬場(ほんばば)の名も懐かしい。現在、宮前(みやまえ)やこの地区の氏子の人たちが、放生会はもちろんだが正月三日の神事玉せせりの祭典の世話をしている。

九大の中を横切って、九大の中を横切って、海門戸(かいもんど)から箱崎浜のお汐井取場を結んだ線上に元寇防塁があったといわれる。事実、海門戸(かいもんど)あたりを少し深く掘れば、目づめ石がかなり出たり、一光寺の横に用水路があって、その辺りから古い石臼が出てきたりしている。また、九大通用門付近からは、金メッキのわに口が見つかったこともある。その様なことを考えてみると、この一帯はかつて海岸線で、対外貿易の拠点として、船の出入りもあっていと聞かから、船付場があり、海からの汐の出入りを調整する水門か何かあってそれで海門戸(かいもんど)というのであろうか。また一説には海門殿(どの)という人が住んでいたというもあるが、何れにせよ古くから外国との交流もあっていて、人の出入りも多かったことが想像される海門戸の下には石垣があると言われているが、昔の防塁の上に海門戸があることにもなり、この辺りが古くから開けていたことを裏付けるものである。放生会の時、この町が中国風の清道(せいどう)の旗を抑立てて、神幸の一ノ戸の先導をつとめるが、放生会における海門戸の歴史的先進性の名残りであろう。お年寄りが「カイモンロ」或いは「カイモロ」となまって呼ぶのも楽しい。

箱崎には、通路が開通したのを記念して、その時代の年号を附しているものかおる。明治(めいじ)町(まち)、昭和町(しょうわまち)がそれである。箱崎の海岸線も遠くなって行くが、大正末から昭和にかけて埋立てられたところがある。この工事を担当した市土木課の長島技師という方が、町名を付けたということである。埋立てを請負った飛島組の名を取って飛島町(とびしまちよう)。貝がよく取れていたので、塚があったわけではないが貝塚(かいづか)。重みを感じさせるとともに、快よく耳に響く。そしてこの長島技師は、歴史に詳しい方であったと考えられるが、小松町はかつて九大の地蔵堂跡におった小松山重盛院還国寺から、名付けられたものと思料される。

一、二回にわたって、箱崎の幾つかの町を、古老などを尋ねて駆足で調べてみたが、由来記といえる程のものではなく、貴重な紙面を割いていただいたことを恐縮している。ただ、私たちの「ふるさと箱崎」が、菅崎宮と九州大学に代表されるように、由緒深く、伝統の中に新しい生命が息づいている町であることを再確認できたことは有難く嬉しかった。(はごぎPTA 1980年3月15日より)

～飲酒運転撲滅宣言のまち 箱崎・声かけあえる あたたかい町 箱崎～